

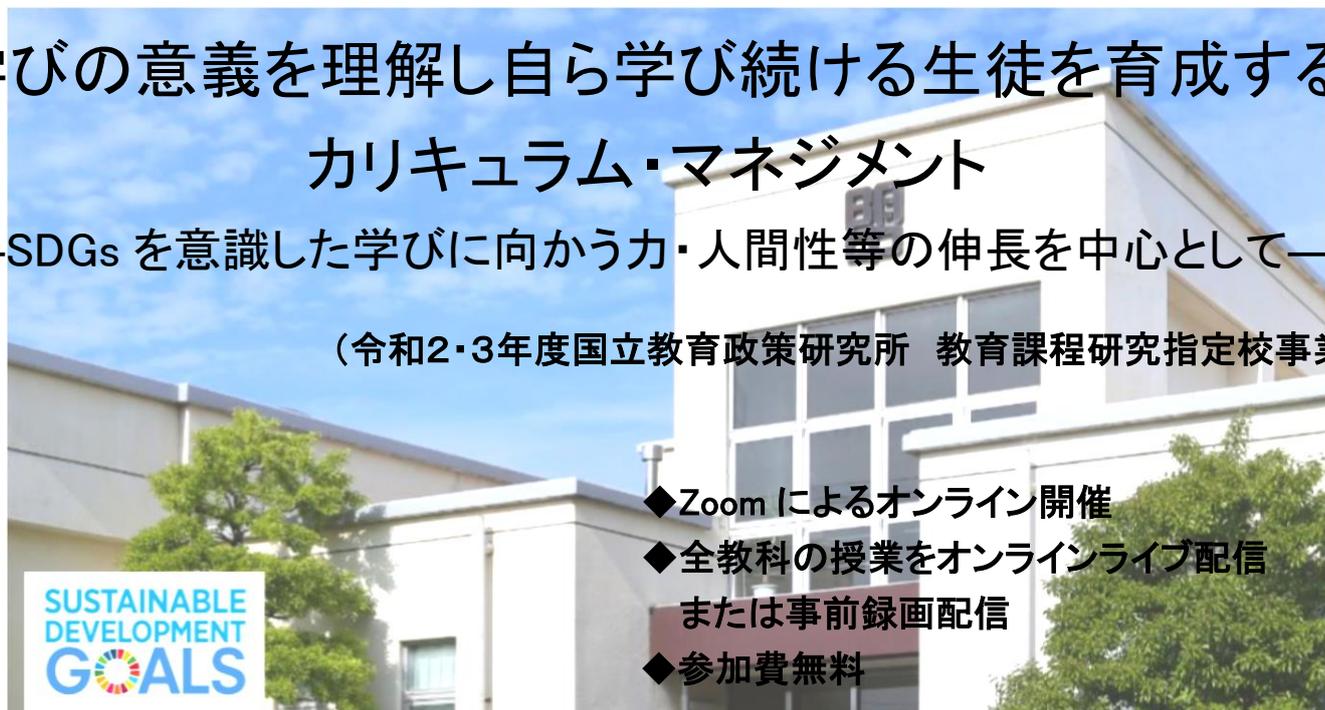
岡山大学教育学部附属中学校  
第36回 教育研究発表会のご案内



学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒を育成する  
カリキュラム・マネジメント

—SDGsを意識した学びに向かう力・人間性等の伸長を中心として—

(令和2・3年度国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業)



- ◆Zoomによるオンライン開催
- ◆全教科の授業をオンラインライブ配信  
または事前録画配信
- ◆参加費無料

期日：令和3年11月12日(金) 12:40～16:30

12:10	12:40	13:30	13:50	14:40	15:00	16:30
受付①	公開授業①	休憩	公開授業②	休憩	教科別研究協議会	
		受付②		受付③		
		13:20	13:50	14:30	15:00	

【受付について】

今年度は受付時間が教科によって異なります。以下の時間に受付をお願いします。

- 受付① 12:10～12:40 公開授業①から参観の方
- 受付② 13:20～13:50 公開授業②から参観の方
- 受付③ 14:30～15:00 研究協議会から参加の方

主催：岡山大学教育学部・岡山大学教育学部附属中学校  
後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

◆教科別研究協議会(15:00~16:30)

教科	研究の概要	助言者	協議会場
国語	<p><b>他者との協働を通じて自らの考えを広げ深める生徒の育成</b>  <b>—批判的思考と創造的思考の往還を促すカリキュラム・マネジメント—</b></p> <p>前回研究では「自らの考えを広げ深める生徒の育成」のために「批判的思考力の育成に向けた」アプローチを試みた。本研究では、前回研究を基盤として「批判的思考と創造的思考の往還」に向けたカリキュラムについて提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 田中 智生</p> <p>岡山県教育庁義務教育課 総括副参事 尾谷 恵里</p>	1C教室
社会	<p><b>他者と協働する活動を通して、よりよい社会を築こうとする生徒の育成</b></p> <p>本研究で目指す生徒像は、「他者との協働的な学習を通して、課題を解決したり納得解を見いだしたりしながら、主体的に社会の問題を解決していこうとする生徒」である。そのためのカリキュラムの工夫と学習課題の設定に重点をおいた授業を提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 桑原 敏典 准教授 山田 秀和</p> <p>岡山県教育庁義務教育課 指導主事(主幹) 仁後 知佳</p>	1E教室
数学	<p><b>事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、自ら問題を解決しようとする生徒の育成</b></p> <p>解決した問題の結果や過程を振り返り、新たな問題につなげることができる生徒を育成するため、「日常生活や社会の事象を数理的に捉える活動」に注目して研究を進めている。本研究では単元構成と授業の在り方を提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 岡崎 正和</p> <p>岡山市教育委員会事務局 学校教育部指導課 指導主査 岡田 正和</p>	2C教室
理科	<p><b>自然の事物・現象の中に問題を見だし、理科の見方・考え方を働かせて、課題を解決することができる生徒の育成</b></p> <p>理科ではこれからの時代に求められる資質・能力のうち、システム思考コンピテンシーに着目して研究を行っている。昨年度実施した気象分野の実践に続き、今年度は、炭素循環を軸とした3年間を通しての系統的なカリキュラムについて提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 藤井 浩樹 准教授 川崎 弘作</p> <p>文部科学省国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官 小倉 恭彦</p>	第1理科教室
音楽	<p><b>創造性を基盤とする音楽の学びを追求する生徒の育成</b></p> <p>音楽科では、豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手を育てることを目指し、研究を行っている。本研究では、「生徒がより創造性を働かせることができる学習活動、題材構成」に着目し、領域や教科の横断、それぞれの領域・教科で培われた力の往還が図れるよう意識したカリキュラムを提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 小川 容子</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 大辻 慎一郎</p>	音楽教室
美術	<p><b>創造活動を通して、環境や社会から価値を見つけ獲得できる生徒の育成</b></p> <p>美術科では、題材や3年間のカリキュラムを通して育成を目指す生徒の姿に着目し、研究を行っている。本研究では、生徒の「おもしろそう」や「やってみたい」を創造する題材やカリキュラムについて提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 清田 哲男</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 田井 良和</p>	美術教室
保健体育	<p><b>豊かなスポーツライフを实践していく生徒の育成</b>  <b>—社会情緒的コンピテンスの向上とカリキュラム・マネジメント—</b></p> <p>保健体育科では、豊かなスポーツライフを実現する能力に着目し、その中でも他者と関わる際に必要な力に焦点をあてて研究する。本研究では、自ら問いを立て、みんながゲームを楽しめるように観察・分析・改善する授業及びカリキュラムを提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 足立 稔 講師 原 祐一</p> <p>岡山県教育庁保健体育課 指導主事(主任) 川藤 圭一</p>	図書室
技術	<p><b>技術の見方・考え方を働かせ、主体的に身の回りの問題を発見し、課題解決に取り組もうとする生徒の育成</b></p> <p>技術科では、技術の見方・考え方(社会からの要求、環境への負荷、安全性、経済性)、生産者の立場からの視点を重視している。本研究では、課題解決学習に取り組む生徒の育成を目指し、他教科との関連とSDGsを意識した題材やカリキュラムについて提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 入江 隆</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 難波 玄</p>	第3技術教室

家庭	SDGsを意識し、持続可能な社会の構築の視点で意思決定できる生徒の育成 —「多様なライフスタイル」を鍵概念とした中学校技術・家庭(家庭分野)の A 家族・家庭領域におけるカリキュラムの工夫を通して—  「モデル」を軸としたパフォーマンス課題の解決を通して、協力・協働の視点を意識して学びを深めることのできる家族・家庭生活領域のカリキュラムを提案する。	岡山大学大学院教育学研究科 教授 李 璟媛  岡山県総合教育センター 指導主事 岩佐 奈津子	被服教室
英語	生涯にわたり自ら学び続ける自律した学習者の育成 —生徒自身が PDCA サイクルを意識する単元・授業構成の改善—  英語科では、「自律した学習者」を「自己調整学習習慣を身に付けた学習者」と捉えている。本研究では、自己調整学習を担う要素の1つである「動機づけ」の促進を目指し、ピアラーニングを取り入れた単元・授業構成を提案する。	岡山大学大学院教育学研究科 特任教授 高塚 成信 准教授 小山 尚史  岡山市教育委員会事務局 学校教育部指導課 指導主査 坪井 由佳	インターナショナル ルーム
<p>全体編 助言者 ※なお、全体編につきましては、教科別研究協議会の冒頭にて説明させていただきます。</p> <p>文部科学省国立教育政策研究所 中国学園大学・中国短期大学 岡山理科大学教育推進機構教職支援センター 学力調査官・教育課程調査官 遠山 一郎 副学長 住野 好久 教授 岡本 弥彦</p> <p>岡山大学大学院教育学研究科 岡山大学 全学教育・学生支援機構 岡山市立操南中学校 教授 川田 力 准教授 中山 芳一 教諭 竹島 潤</p>			

### ◆事前配信(数学・理科・保健体育・技術・英語)

教科	授業者 学年・組	単元／題材	授業説明
数学	横林 慎也 3年 A 組	4章 2乗に比例する関数 自動車の速さとスリップ跡	現実事象の問題解決場面として、自動車の制動初速度とスリップ跡(制動距離)に関する題材を扱う。既習の関数と比較しながら、表やグラフをもとに「関数とみなす」根拠や妥当性を追求する。
	高田 誠 3年 D 組	8章 標本調査 母集団と標本の関係	標本の大きさを変えたときに、標本の平均値のばらつきがどのように変わるか、箱ひげ図を用いて比較することで、標本の大きさが大きいほど標本の平均値が母集団の平均値に近づく傾向があることを明らかにする。
理科	坪田 智行 1年 D 組	身のまわりの物質 「二酸化炭素を探究する」	二酸化炭素の性質についての観察や実験を通して、二酸化炭素がもつ温室効果に気づき、地球温暖化との関係に目を向ける。
	小池 かおり 2年 A 組	化学変化と原子・分子 「光合成と呼吸を化学変化で考える」	「光合成」と「呼吸」を原子・分子モデルの具体操作によって化学変化の視点から捉え直すとともに、この2つのはたらきが持続可能なシステムであることに気づき、二酸化炭素が増加している現状と課題について考える。
	山本 芳幸 3年 D 組	地球と私たちの未来のために 「炭素循環による二酸化炭素削減」	陸上における生態系の炭素循環をモデル操作によって実感し、循環システムの視点を他の領域へと広げる。また、人間生活が及ぼす影響を捉え、対話を通して、二酸化炭素削減に向けて新たな方法を模索する。
育保健体	川端 美穂 3年 C 組	球技「ネット型」 バレーボール	「相手コートにボールを落とす」という課題に対して、ゲームや練習の中で自ら問いを立て、他者と関わり合いながら探究活動を行う。
技術	日向 洋平 2年 D 組	エネルギー変換に関する技術 電気を安全に利用しよう	サーモグラフィを用いて電気機器から生じる温度の変化を観察する体験を通して、電気機器を安全に使用するための方法や仕組みを学習することにつなげる。
英語	奥田 陽一 1年 A 組	Lesson 5 School Life in the U.S.A.	単元末のパフォーマンス課題を一度きりで終わらせず、再度推敲するための3つの視点を取り入れ、ピアコレクトを行いながら、閲覧者にとって理解しやすい学校紹介のホームページ原稿を作成する。
	ボンド 良子 3年 A 組	Lesson 6 Imagine to Act	日本の達成状況に課題がある SDGs のゴールを1つ取り上げ、ピアラーニングを通して情報を整理しながら、将来への願望を含めた自分の意見を英語で発表する。

◆公開授業① (12:40~13:30 社会・家庭)

教科	授業者 学年・組	単元／題材	授業説明
社会	米林 哲郎 3年B組	国民主権と日本の政治 「行政権の拡大と国民の生活」	「行政権の拡大」とは何か、また行政権が拡大する理由とその影響を、身近な話題を題材にして考察し、国民の生活と国の政治の関係に迫っていく。
家庭	日浦 基子 1年C組	自分の成長と家族・家庭生活 「家庭を支える社会」	家庭生活を支える活動とそれを支える社会の仕事や仕組みの学習を通して、家庭生活と社会のつながりを持続可能な社会の構築の視点で考える。

公開授業② (13:50~14:40 国語・社会・音楽・美術・家庭)

教科	授業者 学年・組	単元／題材	授業説明
国語	松森 典子 1年C組	つながる論理 ひろがる世界 「言葉」をもつ鳥, シジウカラ	『「言葉」をもつ鳥, シジウカラ』を中心に、『オオカミを見る目』『植物のにおい』など他作品の学習で学んだ「方法」を活用して、文章の構成や展開、表現の効果などに迫る。
社会	渡邊 晶 1年E組	武家政権の内と外 「東アジアの交易と倭寇」	足利義満が始めた「日明貿易」を手がかりとして、東アジア地域での交流が国内外にどのような影響を与えたのかを考察する。
音楽	三村 悠美子 2年B組	「かえる」が生み出す面白さ	リズムや調を「かえる」、旋律がひっくり「かえる」、リズムがくり「かえ」され「る」、古きよきものに立ち「かえる」等、様々な「かえる」に着目して、鑑賞や創作を行う。本時では、鑑賞で得た作曲家の技を生かしながら、変奏曲をつくる。
美術	武田 聡一郎 1年B組	色と形の自分年表	自分の人生の年表を色と形で表す。生徒が、支持体の大きさや用具の生かし方を考え、他者と関わり合いながら表現する活動を行う。
家庭	川上 祥子 3年E組	私たちの成長と家族・地域生活の課題と実践	既習の衣食住等の学びを活かし、生活をよりよくするため課題を設定し、夏休みに取り組んだ製作物と実践を伴った解決策を提案することで、相互の学びを深め合う。

11月8日(月)まで延長します

◆申し込み方法

- ・以下のフォームより必要事項を記入の上、10月29日(金)までにお申し込みください。右のQRコードからも申し込み可能です。

<https://forms.gle/qNd2in9G65wY3kpd7>



- ・参加費は無料です。
- ・お申し込み時に登録いただいたメールアドレスに、11月5日(金)に「研究会特設ページ」のパスワードを送付いたします。

【お問い合わせ先】

岡山大学教育学部附属中学校 研究主任 三村 悠美子  
 電話(086)272-0202 FAX (086)272-7941  
 E-mail: fuchu\_kenkyu@fz.okayama-u.ac.jp  
 HP: <https://chugaku.fuzoku.okayama-u.ac.jp/>